

第3回 名古屋市男女平等参画審議会（11期）

日時：令和6年12月12日（火）午後2時00分から午後3時00分まで

場所：名古屋市役所東庁舎 5階 大会議室

出席者：名古屋市男女平等参画審議会委員 12名

スポーツ市民局長、市民生活部長、男女平等参画推進課長

傍聴：0名

記者：0名

1 開会

2 スポーツ市民局長あいさつ

3 議題

（1）男女平等参画基本計画2025の推進状況の評価について

（男女平等参画推進課から説明）

質疑応答

【会長】

それでは、私と副会長が部会長ということだが、何か補足などあればお願いしたい。

【委員】

中間評価部会（グループ2）からは特にございません。

【会長】

中間評価部会（グループ1）からも特にございません。

それでは、審議会からの意見案に関して何かご意見等があればお願いしたい。

過不足なくまとめられているということでよろしいか。

それでは、特に意見もございませんでしたので、案の通り承認してよろしいか。

（意見なし）

【会長】

ありがとうございました。

それでは議題2の方に入りたいと思う。議題2 第10回男女平等参画基礎調査の結果速報概要について、事務局から説明をお願いしたい。

（2）第10回男女平等参画基礎調査の結果（速報）概要について

(男女平等参画推進課から説明)

質疑応答

【会長】

今の結果を踏まえてご質問ご意見等、何かあればお願いしたい。

【委員】

これまで私は、男性が家庭参画しづらいのは労働時間が長いから仕方ないのでは、という認識をしていたが、今回の調査だと、労働時間にそれほど男女の差がなくて、家事全般への参画はすごく差がある。何でだろうというのが素朴によくわからなくて、ご議論はされていると思うのですが何かご認識やご意見を伺えれば。

【委員】

ここでデータが出ているように「なんちゃって育休」というのが問題になっている。育休をとったものの、何もできずただ休んでいて、育休が休憩時間と何も変わらないというのはやはりどうなのかということが話題になる。なぜこうなるのか、という話の中で、やはり男性が、父親というものは自分の父親しか見ていなくて、若かろうが何だろうが、(むしろ)若い方のほうが実は自分の父親しか見ておらず、「OSが古いまま」。OSが古いままで育っているからそもそもアップデートされていないので、若くてもなんちゃって育休というのがあるのではないかと。

女性は逆に友人だとか、いろいろな横の繋がりの中で自分のことを振り返っているのだと思うが、男性はないのでは。先ほどのDVでもそうだが、相談しない。横の意見を聞いたりとか、そういうのも苦手で、コミュニケーションをする女性と違って、(意見を)言わないとか飲み込むとか、そういう意識があるようなところも一因かなと思う。育休をとってもやらない。やらないのかやれないのか分からないが、やる気がないのかもしれないし。ある意味、OSが古いと「それは女性の仕事だろう」と思っていたりするし、「やったことがないからできない」と開き直る人もいるみたい。本当は、家事だから女性がやるわけでもないし、育児に関しては男女とも夫婦だったら、両方ともゼロからスタート。私はそういうふうに考えている男性が非常に多いのではないかというのは、議論として話はよく出る。それでどうするかということだと、若い時分、学生くらいのときに父親のOSを切り替える必要があるとか、これからは家事くらいやらないとパートナーに好かれないよ、というくらいの話をして意識を変えていくだとか、あとはモデルケースを別に見せないと、なかなか変わらないという話はする。

【委員】

労働経済学と定量経済学を、データを使って分析している。性別役割分業意識については、教育レベルが発達するとか経済発展によってだんだん解消されていくといった説もあるが、これ経済学で丁寧な調査とか分析があって、実はアメリカでも(性別役割分業意識が)結構

残っていて、かなり経済学からしても手ごわい。ひょっとすると人類に普遍のテーマではないかと。2年前にクラウディア・ゴールデンという女性の経済学者が初めてノーベル経済学賞を取ったが、その中でもこの性別役割分業意識、こういった関連に興味のある方は嫌というほど聞いていらっしゃるかもしれないが、例えば経済レベル・教育レベル（社会全体としての豊かさ、生活水準）が上がるといったことで自然に徐々に解消されていくのではないかという淡い期待は、今のところ打ち砕かれている。一方解決方法として考えられるのは家庭環境と学校環境といった子どもの生育環境。家庭環境に関しては、両親が共働きだと、ワークライフバランス意識が非常に強くなる。親の働き方を見て、子どもがそういった意識を持つといった報告で、実際私も（授業で学生と）個票をもちいて簡単に分析したが、統計的に有意に出た。もう1つは、親のしつけの仕方（育児スタイル）というのが意外と効く。育児のスタイルは心理学的に言うと大きく分けて3つある。1つは「なんとかしなさい」「男なんだから泣くな」「女の子なんだから口のきき方に気をつけなさい」といった（専制型の）ものや、「何でもいいよ」という寛容なスタイル（いわゆる北欧型）、専制型と寛容型の中間タイプ（加えて指導型）などがある。興味深いことに、男性が押さえつける専制型タイプの躰を受けると、成長すると（自分も）そういうふうになってしまう（専制型育児をとる）。また、親に「女の子だから男の子だから（女らしく、男らしくしなさい）」と言われて育った子どもは、（20歳前後の時点においてだが）やはり性別役割分業意識が強い傾向が認められた。一方で、指導型のしつけの影響については、男女で異なる結果となっている。例えば「料理や炊事洗濯は自分でできた方がいい」、という育てられ方をすると、男性は性別役割分業意識が弱くなるが、女性には統計的に有意な結果は得られていない。その理由について、いろいろと議論したが、そんなこと（料理や洗濯は自分でできるように）は、女性は当たり前に行われているためではないか、と解釈するに至った。

学校教育（環境）の影響については、同じ調査に「学校でジェンダー教育を受けたかどうか」という設問があったため、（説明）変数に入れたら、小学校中学校段階では効いていなかった。そのあたり（年齢）はまだ（ジェンダー）についての知識や意識が不足しているせいかもしれない。しかし、高校と大学の段階では、男性ではネガティブな影響があった（学校でのジェンダー教育は性別役割分業意識に負の影響（弱くなる））のに対し、女性では統計的に有意な結果は得られなかった。結果の解釈としては、男性はいつも優位なところにいるから、そういう授業を受けて初めて、そうなんだと思うけれども、私たち女性は、いわゆる家事育児（男性も女性も）するのが当たり前だと言う意識を持っているので、学校でジェンダー教育を受けても（当然だと日頃から受け止めているので）あらたに影響を受けるということはないのではないかと。（データ分析を行なった）女子学生らの提案としては、例えばLGBTとかもうちょっと踏み込んだことであれば女性の方にも効くのではないかとというような結果の解釈があった。現状として、労働時間と言われているが、非正規雇用が増えたり景気が悪くなったりして（女性の社会進出も）、労働時間の差があまりなくなってきたとしても、依然育児・家事というのが女性に偏っているというのは、やはり根深い問題であると同時に、家庭教育あるいは学校教育である程度緩和できるのではないかとというのが、経済学の今ま

でのところの見解になる。今回学生らで行なった推計はこれらを追認するものであった。

【会長】

15 ページのセクハラ・ストーカー・痴漢被害が前回と比べて高くなっているという話だったが、どのくらい高くなっているのか、今分かるか。

【事務局】

少々お待ちください。

【会長】

他はどうか。

【委員】

今日配布された資料の 16 ページ 17 ページ見開き、DVのところ、配偶者等や交際相手からの暴力被害経験率で、これまでの経験率と、この 1 年間に限定してあると答えた人にこの 1 年間というのを聞いているところで、「これまで」の経験だと女性の被害経験率の方が男性の方を上回っているが、この 1 年間に限定したら男性の方が多くなっている。ただ、心理的などところと身体的などところは 68 名・49 名いらっしゃるが、性的強要だとかは 7 名、経済的圧迫も 23 名の男性の回答と、非常に数が少ないので、これを報告書で触れないわけにはいかなくて、全般的にはこれまでの被害経験率は女性の方が、圧倒的に高いが、この 1 年間に限って聞いたときに、男性の暴力被害が高くなっている。ここからもちろん理由はわからないが、すごくビビットに記憶にあるのか、男性も、暴力被害なのだという意識が高まってきていて、暴力被害としてアンケートに回答しても沽券にかかわらないというかはわからないが、ともに人権の問題として、この数字をとらえる必要があるのか、どこまで報告書に書くべきなのか、というのは今悩んでいるところ。男性の被害も人権の被害というところで拾い上げていって、今後より注視していく必要があるのかと思っている。

【事務局】

被害経験ということで、セクシャルハラスメントからお話させていただく。今回の調査については資料 15 ページにあたる部分になる。全体でセクハラ被害経験率ということで、例えば職場や学校地域などの場で性的な思いをしたというところだと、全体で 57.2%がないと答えているが、前回は 66.4%の人がないという回答になっている。

職場や学校等での関係を利用して、身体を触られたというような全体のところでいくと、今回は 80.1%がないとなっているが、前回は 82.8%がないというようになっている。

それから、一番下、学校などで性的関係を迫られたというところに関しては、ないと答えたのが今回 91.2%で前回は 90.4%となっております。

続いて、ストーカー・痴漢行為の被害経験率について、こちらは今回全体で、つきまとう

メール・手紙が来たり、つきまとわれたりしたというのが、79.8%がないと答えている。前回は80.4%がないと答えている。それから、電車の中で不快な思いをしたと答えているのが、全体で68.5%がないと今回は答えていて、前回は69.9%がないと答えている。

【会長】

例えばセクハラに関しては「ない」が、減っているということか。

【事務局】

そうだ。

【会長】

あと、先ほど委員の方から話があった、17ページのところも確かに解釈が難しいところだが、年齢層はどうなのだろうか。もしかしたら、性的強要とかは若年層に偏っているであれば、学校における性的ハラスメントとか、そういうのも属性でクロスできるとしたら年齢くらいか。どういう年代が、この1年と答えているのかということと、それぞれのDVを受けているのがどの年代に多いのかというのは、解釈の1つヒントになるかもしれない。

【委員】

これはDVに関してなので、今回の16ページ17ページの議論から少し離れてしまうかもしれないが、若年層の方がDVを意識していない。同じ事案があっても、許容しているというか、これはDVではないと、認識が低いというデータを見たことがあったので、年齢でクロスをすると、例えば16ページに関わるようなことであると、もともと数が少ない中でそれを20代30代40代で分けると、さらに解釈が厳しくなってくるかもしれないのでは。これは作業部会でお任せするが、会長が仰った年齢とのクロスというのが少し気になるところではある。若年者の方がDVという言葉を知っていると思っていたので、あれもこれもDVと思うのかと思いきや、実はそこを言い切れないというのを学会の資料で見たことがある。それを研究している方が、そういった傾向があると仰っていたので、この16ページを見ていて、年齢とのクロスというのは1つあるのかなと。

【会長】

19ページの言葉の認知度というのもしかして年齢差があるかもしれないってことですよね。

他、いかがか。

【委員】

14ページのところで、男性育休の取得を推進すべきでないとする理由というのがあって、その選択肢を考慮するときに、男性の家事育児スキルの低さというのを、私の方から

発言して、項目に入れてもらったところがあって、それは色々なところでそういう話を聞いていたものですから、どうなのかなと思って。そうしたら、こういう結果になっているので、ちょっとショックを受けたというか。女性の諦めと、男性の32.4%の人は、推進すべきではないと言っているということは、開き直っちゃっているというふうにも見えるので、この問題はちょっと根深いのかなと。企業もそうだが、ここに対策をやっていく必要があるのかなというように思った。

【会長】

他いかがか。それでは部会の方で報告書を執筆して、また皆さんに見ていただく機会もありますので、その時にコメント等いただけたらと思う。

続けて議題 3 次期男女平等参画基本計画の策定について、事務局から説明をお願いしたい。

(3) 次期男女平等参画基本計画の策定について

(男女平等参画推進課から説明)

質疑応答

【会長】

資料 3-2 の 12 月・1 月の所管事務調査（市会）というのはどういうものか。

【事務局】

名古屋市で作った計画案について、市議会議員の方々にご意見を頂戴する場を設けるといふものを所管事務調査と言っている。

【会長】

続けて議題 4 その他について事務局の方から説明をお願いしたい。

(4) その他（令和6年度名古屋市女性の活躍実態調査の概要について）

(男女平等参画推進課から説明)

(質疑なし)

【会長】

それでは以上で本日の議事は終了する。進行を事務局にお返しします。

【事務局】

本日も熱心にご議論いただき感謝申し上げます。冒頭局長から挨拶させていただいたが、今回で 11 期の審議会は終了ということで、また 12 期は新しい計画を作っていくというこ

とになる。委員の皆様方に多大なるお力添えをいただきたいと思っておりますので、来年度以降も引き続きよろしくお願い申し上げます。